

武陽食品株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル

TEL 03-3211-4831 Fax 03-3211-6004



武陽月報は、大豆と共に情報をお届けするニュースレターです。

## 緑のインフレ～グリーンフレーション

### 新型コロナからの経済回復

最近 深刻な原油高となっています。ガソリンや軽油など毎週のように価格が上昇しているので、原油の指標を見ていない方でもご存知かと思えます。当初はコロナ後の経済の回復期待から、原油の価格が徐々に上がり、産油国で増産体制に入っていないことも要因となり、需給がひっ迫し始めたのです。



### 脱炭素へのシフト

ここにもうひとつの動きとして、**各国の政策が脱炭素に急激にシフト**したことで、天然ガスや石炭などの資源価格も同時に高騰し、一気にインフレ期待が上昇しているのです。日本でも太陽光発電や風力発電など再生可能エネルギーの普及に取り組んできましたが、まだまだ火力発電に頼るところが大きく、液化天然ガスや石炭の高騰は電気料金にも影響が出始めました。

原子力発電が全体の発電量の 0.4%まで下落している

日本では、液化天然ガス(LNG)は約 7 割が火力発電所で使用され、オーストラリア・ロシアなどからの輸入に頼っております。中国でも脱炭素の動きから LNG 需要が高まっており、価格は高止まりしているのです。

「世界は脱炭素に向けシフトしたが、**完全なグリーンな世界を手に入れることであるとすれば、我々は高いインフレに直面するであろう。**」と予測した米国の経営者が言ったとおりになりつつあります。今年はこちらに**ラニーニャ現象**が発生する可能性が高まっており、北半球の厳冬はエネルギー需要を高めるため、インフレの深刻化・長期化が懸念される状況です。

大豆・食用油・小麦粉などの値上げが続いてる中、化石燃料をめぐる緑のインフレ懸念があり、我々食品業界でも一層の価格転嫁を検討すべき段階となっております。



## 大豆市況～シカゴ・大連取引所

シカゴ大豆は、中国による買い入れが一服したことで、先月半ばには1 $\frac{1}{2}$ /12ドルを割り込む場面もありましたが、原油高の影響から食用油需要が拡大しており、大豆価格にも影響が出ています。根強い飼料用需要もあり、先月末には6日**連続して価格の上昇**が見られました。



上昇トレンドから5月以降下落傾向にあった

一方、中国産大豆では9月まで年初来高値を見せ上昇してきたが、恒大集団の資金繰り悪化が表面化し、大豆相場も一定の落ち着きが見られました。しかし、先月最終週から再度上昇に転じております。世界的な大豆需要の高まりは当面落ち着く気配がなく、今後、**中国大豆の値上げも想定される状況**となっています。



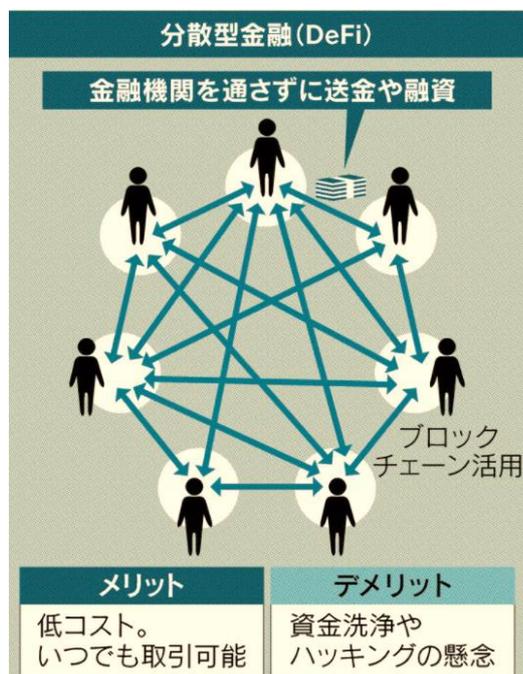
## 新たな金融システム～DeFi(ディーファイ)

### 資金調達の新しい形になるのか？

2019年に米フェイスブック社が発表した「リブラ」は、主要国の反対で頓挫しましたが、中国が開発を進めるデジタル人民元の存在が脅威となり、各国の中央銀行はデジタル通貨(CBDC)の実現に向けた研究が進んでいる状況にあります。ここにまた新たに、中央銀行が管理する中央集権的な金融システムとは違う「**分散型金融**」DeFi(ディーファイ)が市場規模を拡大させています。

DeFi(ディーファイ)の柱は銀行を介さない融資で、インターネット上の取引場で仮想通貨を借りられるもの。**無人の取引システムに多くの個人が預け入れた仮想通貨を借り手が受取る仕組み**。仮想通貨の上昇を見込んだ投機的な貸し借りが中心のようです。

DeFi(ディーファイ)開発の非営利団体「メイカーDAO」は今年の7月に創業者が解散を発表しており、開発者不在にかかわらずプロジェクトは動き続けています。管理も監視もできない状況で、資金洗浄(マネーロンダリング)の温床になりかねません。それでも市場規模は拡大を続けており、これまでの金融システムに一石を投じております。



### そうは言ってもまだまだ地元金融機関！

事業者から見れば、まだまだ市中の金融機関に頼らざるを得ません。融資を受けている事業者にとっては、依然として地元金融機関は頼みの綱です。重要なのは担当者とその上席者とのコミュニケーションです。**資金繰り表や試算表を提示し実情を説明しながら、常に意見交換できる体制づくり**を心掛けてください。金融機関の担当者は地元企業を応援したい、助けたいとの気持ちを持っています。ただしそこには格付けに応じた一定のルールが存在しており、逸脱してまで支援はできません。そのルールはコミュニケーションの中から引出し、理解することが、我々事業者に求められていることです。



□ 本社	03-3211-4831
□ 東北第一営業所	0229-54-1151
□ 山形出張所	0234-21-9144
□ 東北第二営業所	0243-24-5818

□ 飼料部宮城営業所	0229-25-8680
□ 飼料部福島営業所	0243-24-1240
□ 大豆選別・挽割加工工場(宮城県美里町)	
□ 大豆保管倉庫(宮城県大崎市・福島県二本松市)	